

ショートコメント vol.412 (2026 年 8 月 21 日)

テーマ：代替調達が進む原油と遅れるナフサ

～7月の貿易統計ではナフサ輸入量の減少が続く～

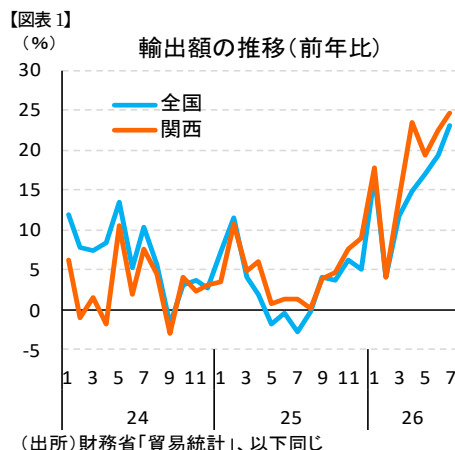
●7月の貿易統計の結果

財務省から26年7月の貿易統計が発表された。

輸出はAI関連の世界的な需要増による牽引で、前年比では2けた増が継続中であるなど、かなり好調な動きとなっている（図表1）。特に、関西は全国の電子部品輸出の5割以上を占めるとあって、好調な動きが目立つ。

その一方、輸入面で注目されるのは中東情勢の影響である。石油関連製品の確保が求められる中、中東からの輸入の回復状況は企業活動を左右するものとして、かねてから注目を集めてきた。

そうした中、7月の輸入額をみると、原油や揮発油（ナフサ等）といった石油関連製品が前年を大きく上回っている（図表2）。ただこれは単価の上昇による影響が大きく、数量ベースでの輸入が増えているかどうかは、別途確認する必要がある。

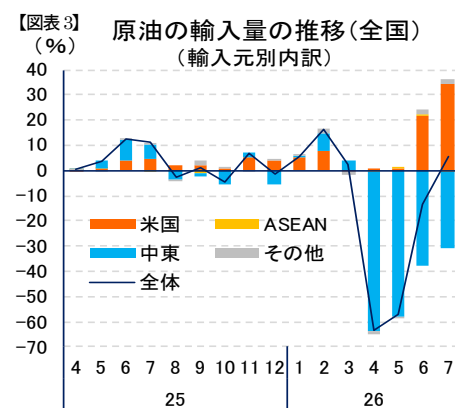
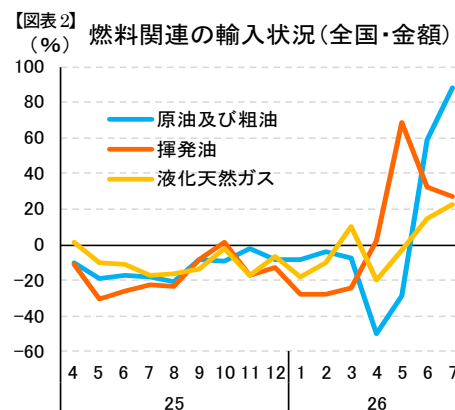


●原油、ナフサの輸入量の推移

原油の輸入量は今年の4月に前年比63.7%減と大きく減少した後、緩やかな回復が続いてきたが、この7月は前年を上回る動きとなった（図表3）。特に米国からの代替調達が進み、中東からの減少を補う形となっている。

代替調達については輸送費用の追加などでコストの上昇も進みやすく、その対応も新たな課題になるものの、まずは原油不足の回避を優先した形といえよう。

その一方、揮発油（ナフサ等）の動きをみると、依然として輸入量の前年割れが続いている（次ページ・図表4）。月ごとの変動はあるものの、直近は前年比で20～30%の減少となっている。中東からの輸入の減少幅は縮小傾向にある一方で、注目されるのは代替調達の動きであろう。原油とは異なり、ほとんど増えていないことが分かる。現状、それを補うような国内生産の増加も確認できないことから、企業の調達面への影響が懸念される状況といえよう。



●今後の注目点

もちろん輸入の動きだけで、全体的な需給状況を判断できるわけではない。仮に需要が減少傾向にあるならば、輸入が減ったとしても、需給の急激な悪化は回避できる可能性もある。ま

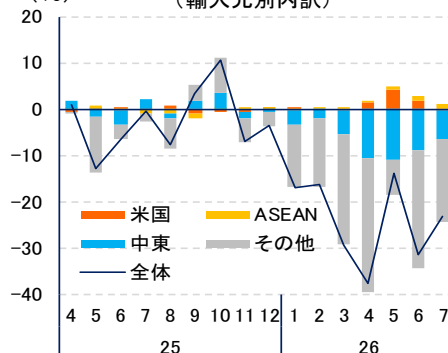
※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

た、貿易統計の「揮発油」がナフサそのものではない点にも注意が必要であろう。

とはいえ、一般的にはナフサも原油と同様に、代替調達の動きが進んでいると認識がもたれていることは事実である。特に、政府からも同様の発表があった中で、実際の輸入の推移とのギャップがあまりに大きい点は軽視できない。

ひとまずは8月以降、代替調達の動きが確認されるのかに注目が集まるとともに、代替調達の遅れというリスクも念頭に置く必要があろう。その場合は、中小企業を中心とした仕入不足にも警戒が求められよう。

【図表4】 揮発油の輸入量の推移(全国)
(輸入元別内訳)



本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
TEL: 06-7668-8805 mail: hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。